



特定非営利活動法人
コミュニティワーク研究実践センター

2020年度 実績報告

コミュニティワーク研究実践センターは
2021年2月に設立10周年を迎えました

NPO法人コミュニティワーク研究実践センター

2020年度事業成果について

【2020年度 事業目標】

- ① 2021年度に向け、札幌及び空知エリアでの新たな運営体制を運用していく。
- ② 自主財源及び補助金・を活かし、事業を拡大していく。
- ③ 法人の活動を支援する人たちを獲得する。
- ④ コロナウィルス感染の影響で困窮した人たちの支援。

【事業成果】

①2021年度に向け、札幌及び空知エリアでの新たな運営体制を運用していく。

⇒2021年度の新体制に向けて、空知運営会議の定期的な開催や引継ぎ業務の検討など積極的に行い、2021年4月から新たな運営体制を敷くことにつながった。

②自主財源及び補助金・を活かし、事業を拡大していく。

⇒READYFORによる新型コロナウイルス感染症：拡大防止活動基金の助成を受け、生活困窮者支援現場への後方支援プロジェクトを実施した。自主事業の拡大とは異なるが、厚生労働省に対し、コロナ禍での支援現場の状況や生活困窮者の状況などについて情報共有を行い、政策提言につながった。

③法人の活動を支援する人たちを獲得する。

⇒コロナ禍で住まいの相談が激増するの受け、2020年6月～9月の期間クラウドファンディングを実施した。213名の方から支援を頂いた。この他、YouTubeチャンネルを開設し、研修会や報告会、コロナ禍での支援現場やNPO活動への影響を伝える放送を実施。活動を支える支援者が増えた。

④コロナウィルス感染の影響で困窮した人たちの支援。

⇒クラウドファンディングの実施や認定NPO法人抱樸や村上財団の協力を得て、新たに生活支援付き住宅を20室(札幌15・月形5)確保し、コロナ禍で住まいを失った方や困窮した方の支援体制を整えた。空知地区の自立相談支援機関では新型コロナウイルス感染拡大の影響で相談数が増加し対応を行った。この他、READYFORによる新型コロナウイルス感染症：拡大防止活動基金の助成を受け、生活困窮者支援・社会福祉協議会・障害相談室等の相談支援現場を中心に、フードバンクや民間で支援活動を行っている団体などへ後方支援を行った。

定款の事業名:コミュニティワークに関する各種モデル事業の実施

岩見沢市生活サポートセンターりんく①

- 実施期間:2020年4月～2021年3月
- 実施場所:岩見沢市
- 受益対象者の範囲:岩見沢市民
- 従事者人数:8名
- 支出額:40,835(千円)



○事業概要

生活困窮者に対して、総合相談窓口の設置すると共に、安心して過ごすことが可能な居場所の確保及び生活支援、就労支援を市内関係団体とネットワークを構築しながら一体的に実施した。

また、生活困窮者・生活保護受給者が就労の手前の訓練として利用する就労準備プログラムおよび就労セミナーは、コロナ禍のためほとんど実施することが出来なかった。



パーティションを設置し
感染対策を行いながら
プログラムを実施した

○新規相談者件数

性別	男性	女性	不明	合計
	165	111	1	277

年代別	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	不明
	6	21	30	55	50	26	12	77

定款の事業名:コミュニティワークに関する各種モデル事業の実施 岩見沢市生活サポートセンターりんく②

コロナ禍における活動の変化

○自立相談事業について

①面談対応数の増加

新規問い合わせ・相談件数が増加した。
2019年度677件⇒2020年度:83件6(159件増)

②住居確保給付金の相談・問い合わせおよび、申請の増加。

相談件数

2019年度 0件

⇒ 2020年度 97件(内、申請34件)

③総合支援資金の延長及び、再貸付の面談実施。

今までのような困りごとの相談というよりは、貸付を受けることが面談の目的となり、
本当の課題が見えないまま面談をすることが多かった。
そのため貸付終了後は継続した支援につながりにくかった。

○就労準備プログラム事業について

コロナによる就労準備プログラムの中止により、
家から出てりんくに来るリズムが崩れた。

また時短面談・できるだけ長居をしない、
などの感染対策により居場所としての機能が低下した。

住居確保給付金のご案内
令和2年4月20日から対象者が拡がります

住居確保給付金は、就職にむけた活動をするなどを条件に、一定期間、家賃相当額を自治体から家主さんに支給します。

これまでの対象者 離職・廃業から2年以内の方

令和2年4月20日以降
離職・廃業から2年以内または休業等により収入が減少し、離職等と同程度の状況にある方

仕事がない・減った
家賃が払えない

住居確保給付金の支給により、
安定した生活を送ることができます。

主な給付要件チェックリスト

項目	チェック欄																
離職・廃業をした日から2年以内、またはやむを得ない休業等により、収入を得る機会が減少していますか？	☐																
金融資産が一定額以内、かつ、収入基準額を超える世帯収入を得ていませんか？	☐																
<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>単身世帯</th> <th>2人世帯</th> <th>3人世帯</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>金融資産(預貯金計)</td> <td>486,000円</td> <td>744,000円</td> <td>954,000円</td> </tr> <tr> <td>収入基準額(月額)</td> <td>111,000円</td> <td>160,000円</td> <td>198,000円</td> </tr> <tr> <td>支給家賃額(上限額)</td> <td>36,000円</td> <td>36,000円</td> <td>39,000円</td> </tr> </tbody> </table>		単身世帯	2人世帯	3人世帯	金融資産(預貯金計)	486,000円	744,000円	954,000円	収入基準額(月額)	111,000円	160,000円	198,000円	支給家賃額(上限額)	36,000円	36,000円	39,000円	☐
	単身世帯	2人世帯	3人世帯														
金融資産(預貯金計)	486,000円	744,000円	954,000円														
収入基準額(月額)	111,000円	160,000円	198,000円														
支給家賃額(上限額)	36,000円	36,000円	39,000円														

上記の状態になる前に、世帯生計を主として維持していましたか？

※すべての項目にチェックが付いた方
住居確保給付金の支給資格を要する可能性があります。申請の
審査要件生活サポートセンターりんくにご相談ください。

参加者の多い
プログラムは
野外での活動を
増やして実施した



たのしみ隊
「カメラで春を探そう」



栄通商店街花壇のお世話

定款の事業名:コミュニティワークに関する各種モデル事業の実施

そらち生活サポートセンター

○自立相談支援事業(空知総合振興局・6市)

月形事業所内(そらち生活サポートセンター)を拠点に、
空知管内6市14町の対象エリアにて相談を受け付けた。

◇特徴

「フリーダイヤル」と「訪問支援」「同行支援」「ジョブクラブ」

◇実績

全相談件数514件(内新規381件)

相談支援の結果:

就労者数55名・増収者数54名・借金滞納整理12名・住宅確保17名

○被保護者及び生活困窮者就労支援・就労準備支援事業(美唄市)

○広域実施体制整備促進事業委託業務 就労準備支援事業(北海道・空知地域)

生活保護受給者、そらサポ相談者の方を対象に、「就労」に向けて気持ちや体の準備を行うことを目的に、様々な作業体験を実施した。

◇実績(*ジョブクラブ含む)

実施内容:羊毛フェルトづくり・団地清掃・田植えごみ上げ・ふるさと納
税返礼品発送補助・除雪作業

実施回数 48回 延参加者数 235人



←北竜町での農作業体験



団地清掃プログラム→

○実施期間:2020年4月~2021年3月

○実施場所:空知管内の市・町

○従事者人数:6名



○受益対象者の範囲:14町6市

空知総合振興局(14町) 赤平・芦別・歌志内・滝川・
三笠・美唄在住 の生活困窮者

○支出額 28,913(千円) ○従事者人数:6名

○家計改善支援事業(芦別市)(北海道・空知地域)

芦別市・空知地域のそらサポ相談者の方を対象に、
家計管理等の相談に対応した。

◇実績 3名(芦別)、21名(空知地域)

定款の事業名：生活目的別課題に関する調査研究及びプログラム開発事業

月形事業所わくわーく（月形事業）

- 実施期間：2020年4月～2021年3月
- 実施場所：月形町
- 対象者の範囲：①月形町民 ②生活困窮者
- 従事者人数：6名
- 支出額：623(千円)

○事業概要

月形町において生活困窮者や若者の共同生活住宅「樺月荘」を設置し、生活支援を行う。
同住宅を拠点に地場産業（農業・観光・製造）と連携し、就労訓練・短期就労機会を提供した。
月形町内に土地と建物を購入し、二ヶ所目の共同生活住宅として「第二樺月荘」の整備に着手した。
また、地域おこし関係者等と連携したイベントや交流会に参加した。

◇実績

- ①生活支援＋（相談：そらサポ）
樺月荘：7名入居



第二樺月荘 改装の様子



つきがたファーマーズマーケットの様子

②地域づくり

月形町のイベントに参加
（つきがたファーマーズマーケット）
※令和2年度は、新型コロナウイルスの
感染予防のため、例年参加していた夏祭りを
はじめとする各種イベントや、交流会が中止
となった。

今年も猫が
相談に訪れる



定款の事業名:コミュニティワークに関する各種モデル事業の実施

札幌市生活困窮者支援事業

～札幌市ホームレス相談センター分室「コミュニティハウスれおん」～

- 実施期間:2020年4月～2021年3月
- 実施場所:札幌市
- 受益対象者の範囲:家のない、家を失う恐れのある生活困窮者
- 従事者人数:8名
- 支出額:16,965(千円)

○事業概要

生活困窮者に対しての自立に向けた相談支援や
衣食住の提供により、相談者の自立と尊厳を確保する。

○実施内容

札幌市内における、家のない生活困窮者等を対象に札幌市ホームレス相談支援センター事業を受託し実施。
一時的な居住場所の提供、身分証明書・住民票の復活・生活保護の申請・居宅確保などを行った。

また、必要に応じ障がい者手帳の取得や必要なサービスにつなげるなど 社会資源との繋ぎ等を行い、
失った生活を立て直す支援を行った。

この他、他のジョイン構成団体とともに、札幌市中心部で生活相談会や巡回相談も実施した。



○一時生活支援事業総宿泊数

令和2年度 延べ 1,656泊
令和元年度 延べ 1,368泊

○一時生活支援事業利用者数

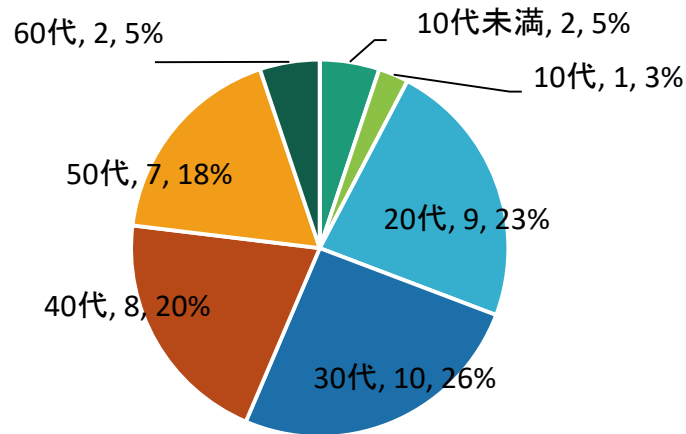
	男性	女性	合計
令和2年度	12	27	39
令和元年度	16	15	31

定款の事業名:コミュニティワークに関する各種モデル事業の実施

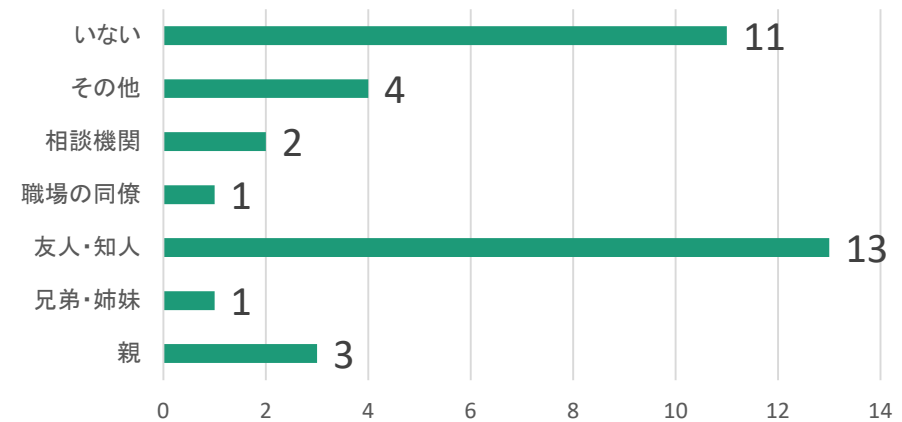
札幌市生活困窮者支援事業

～札幌市ホームレス相談センター分室「コミュニティハウスれおん」～

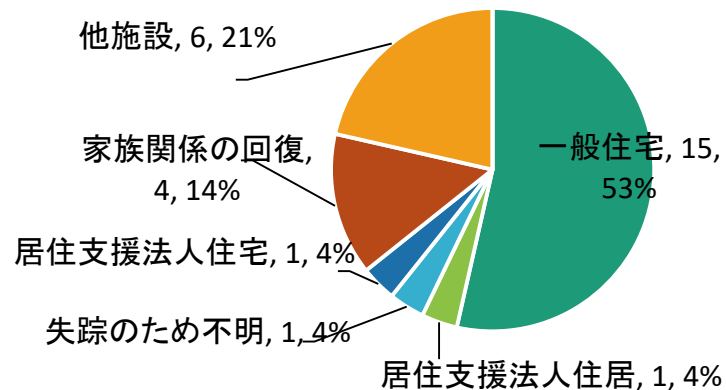
年 代



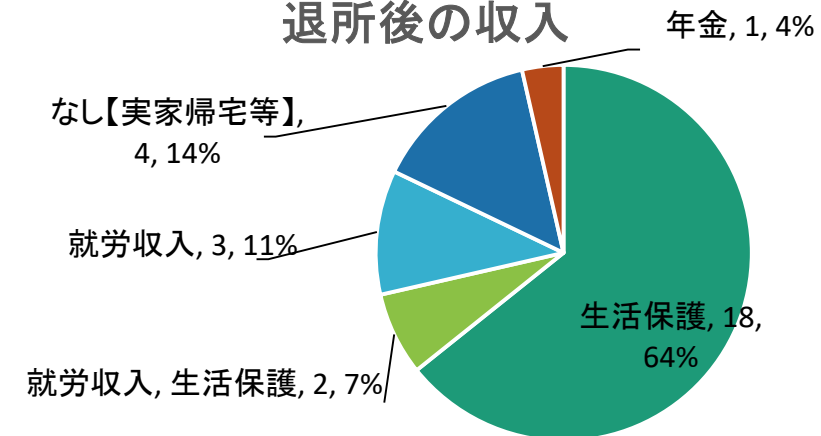
悩みを相談できる人(複数回答)



退所後の居場所



退所後の収入



※退所後の母数については28

定款の事業名:コミュニティワーク支援に関する施設の管理及び運営事業

市民活動プラザ星園

- 実施期間:2020年4月～2021年3月
- 実施場所:市民活動プラザ星園 および札幌市内
- 受益対象者の範囲:一般市民及び市民まちづくり活動団体
延べ 49,044名 (昨年度 97,836名)
清掃訓練参加者 上半期:男性7名 下半期:女性2名／男性3名
- 従事者人数: 4名(正職員)2名(パート職員)

○事業概要

- ・市民活動プラザ星園の管理運営を実施。
- ・市民まちづくり活動団体の育成支援や、入居団体と協働した地域向け事業等を展開。
- ・生活困窮者・被保護者向け就労準備支援、を実施。

○事業実施の成果

令和2年度は新型コロナウイルス(以下コロナ)による影響が多く、札幌市からの指示のもと感染者状況に応じ、柔軟な施設管理が求められた。

- ・貸室利用828件／514万円(前年度1445件・ 420万円)
休館期間:4月14日～5月31日(キャンセル数89件／返金数58件／仮予約キャンセル31件)札幌市417,018円補填
- ・入居スペース:満室の状態を維持(団体数29)
- ・星園カフェ:9月～11月(4回)実施後、年度内中止。
札幌市社会福祉協議会よりさっぽろ総合福祉推進助成により飛沫防止シートなどを設置。
- ・貸室:インターネット回線開通。
- ・館内設備について、老朽化の状況を札幌市と共有でき修繕が進んだ一年となった。
館内全電気子メーター交換・幹線ブレーカー交換・正面玄関交換・ウォシュレット設置など(星園負担3件／札幌市負担8件)

○今後の課題

館内での感染者発生防止が第一と考え、コロナ感染者状況を見ながら事業実施を検討していく。



定款の事業名: 居住支援活動に関する事業

チャレンジハウスプロジェクト

- 実施期間: 2020年4月～2021年3月
- 実施場所: 札幌市内
- 受益対象者の範囲: ①生活困窮者 ②被保護者 ③地域住民及び団体
- 受益対象者人数: 29名(男性23名・女性6名)
- 従事者人数: 7名
- 支出額: 11,251(千円)

○事業概要

住居喪失者及び生活支援が必要な方に対し、衣食住を提供し、自立に向けた支援を実施した。
(支援付き住宅)



定款の事業名: 居住支援活動に関する事業

居住支援法人

- 実施期間: 2020年4月～2021年3月
- 実施場所: 札幌市・岩見沢市・三笠市・美瑛市・月形町
- 受益対象者の範囲: 住宅確保要配慮者
- 受益対象者人数: 86名
- 従事者人数: 11名
- 支出額: 5,107(千円)

○事業概要

札幌地区・空知地区に窓口を設置し、
住宅確保要配慮者の抱える生活課題を整理、
支援方針を明らかにすることで、円滑な入居につなげる。
入居後は課題を解決し、生活破綻を防止する。



①入居前支援(入居相談66名・住宅確保38名)

入居相談窓口の開設／不動産情報の収集と情報提供／不動産会社への同行
生活課題の整理と支援方針の共有

②入居後の支援(48名)

自宅への訪問／生活困窮者自立相談支援事業との連携／各種機関への同行
金銭管理・家賃支払い等援助／サブリース住宅の提供／居場所づくり(共同リビング)

③家賃債務保証の相談(家賃債務保証利用12名)

定款の事業名: 居住支援活動に関する事業

日常生活支援住居施設モデル事業

- 実施期間: 2020年4月～2021年3月
- 実施場所: 札幌市内
- 受益対象者の範囲: ①被保護者 ②地域住民及び団体
- 受益対象者人数: 0名
- 従事者人数: 2名
- 支出額: 48(千円)

○事業概要

2020年10月からスタートした、日常生活支援住居施設(生活保護法)を札幌市で実施するべく準備を開始した。

一棟借りできる施設物件を見つけることが難しかったが、有限会社チョイスに相談し、チョイスが購入したアパートを借り上げることを約束し、改修工事を進めた。
(2021年6月稼働予定)



定款の事業名:コミュニティワークに関する各種モデル事業の実施

仮住まいから本当の 住まいへ事業(CMTクラファン)

- 実施期間:2020年4月～2021年3月
- 実施場所:札幌市
- 受益対象者の範囲:住まいを失った①生活困窮者 ②被保護者
- 受益対象者人数:6名
- 従事者人数:6名
- 支出額:仮住まい 3,055(千円)／生活支援付き 2,015(千円)

○事業概要

新型コロナウイルス感染拡大の影響で住まいを失った方に対し、住まいを提供するべくレディフォーでクラウドファンディングを実施。213名の方から3,030,000円の支援を頂いた。終了後も1,035,000円の寄付があった。

また、村上財団の協力で、クラウドファンディングで集めた寄付と同額の寄付を頂き事業を開始した。
札幌市で5部屋を借り上げ6名が入居。月形町でも一軒家の寄贈を受け、その準備費用(5部屋)としても活用した。



定款の事業名:生活目的別課題に関する調査研究及びプログラム開発事業

全国生活支援付き住宅モデル事業

- 実施期間:2020年7月～2021年3月
- 実施場所:札幌市
- 受益対象者の範囲:住まいを失った①生活困窮者 ②被保護者
- 受益対象者人数:3名
- 従事者人数:6名
- 支出額:仮住まい 6,011(千円)
- 事業概要

新型コロナウイルス感染拡大の影響で住まいを失った方に対し、住まいを提供するため、認定NPO法人抱樸がレディフォーでクラウドファンディングを実施。全国10都市で生活支援付き住宅のモデル事業を実施。当法人が、モデル事業実施団体として指定を受け札幌市内で10部屋確保し、3名が入居した。



定款の事業名:生活目的別課題に関する調査研究及びプログラム開発事業

若者に安心して失敗できる一人暮らしを提供したい (一人暮らし体験事業)

- 実施期間:2020年4月～2020年6月
- 実施場所:札幌市
- 受益対象者の範囲:
15歳～39歳までの住居・生活環境・生活習慣に課題を抱える若者
- 受益対象者人数:
一人暮らし体験事業参加人数:2名(182泊)
- 従事者人数:6名
- 支出額:771(千円)

○事業概要

2019年度READYFORにて、クラウドファンディングを実施。

121名の方からの支援を受け、
若者が安心して失敗できる一人暮らしの場を提供した。

2019年度から引き続き、2名の若者に対し、
居宅場所を確保し、就労・生活支援を実施した。



定款の事業名:生活目的別課題に関する調査研究及びプログラム開発事業

そだちの杜①

○実施期間:2020年4月～2021年3月

○支出額:20,720(千円)

○事業概要

子育て中の親子を対象に札幌市内の児童会館14館で子育て支援事業を実施。
子育てLINE相談を実施(2020年6月～2021年3月)

【子育てサロン】※6月16日までは新型コロナ蔓延のため、子育てサロン事業は中止

◆実施場所:札幌市内児童会館(14カ所)

◆参加人数:年間利用者数親子(5,529組/延べ利用者数33,069名)

◆受益対象者の範囲:子育て中の親と就学前の乳幼児

◆従事者人数:42名

①公益財団法人さっぽろ青少年女性活動協会との契約に変更になり、
2ヶ所(山鼻、エルムの森)増えた。

②独自の子育てサロン体操

(子ども中心の体操から親のストレス、セルフケアにつながる内容)を
サロン利用者による作曲で作成

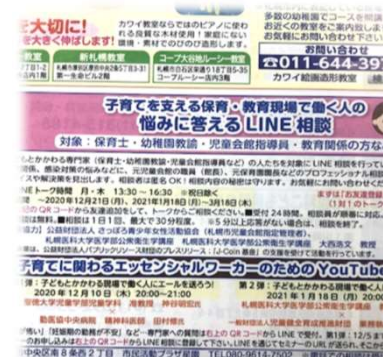
③これまでの子育てサロン目標に「認め合い」を追加し、
親同士が互いの能力、才能を認め合うことの必要性を伝える。

③事業「心地よいだっこのお話」をNPO実施館以外の児童会館2ヶ所で実施

体操
(山鼻)



おままごと
(エルムの森)



北海道
おやこ新聞

定款の事業名:生活目的別課題に関する調査研究及びプログラム開発事業

そだちの杜②

【子育てLINE相談】

2020年6月～2021年3月まで実施。

登録数:305人／相談件数:142件

コロナにより、外出自粛、子育てサロンが中止になり、家庭内で出来る遊びの紹介、子どもの発達についての相談の他、ストレスから子育ての協力について、夫婦関係など多岐にわたる。具体的に子どもと利用できる場所を知りたいという具体的な相談もあった。

【助成金事業】

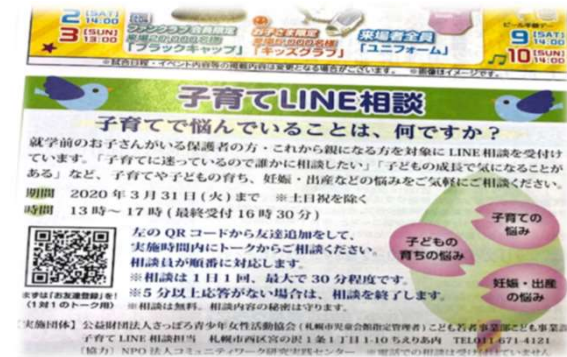
①北海道新聞社会福祉振興基金 223,000円

YouTube子育てセミナー10月16日 227名

②J-coin基金 1,266,055円 子育てに関わるエッセンシャルワーカーのためのLINE相談

YouTubeセミナー(2回)視聴者①345名 ②297名 合計642名

詳細については報告書作成し、関係機関に配布(200部)



YouTubeセミナー
報告書



中島サロン

YouTubeセミナー第1弾

子育てにかかわる エッセンシャルワーカーのための YOUTUBEセミナー

第1弾
子どもとかかわる現場に働く人
にエールを送ろう！

令和2年12月10日(木)
午後8時～9時
終了



神谷 明宏 田村 修
【お問い合わせ先】 ☎ 080-5514-7102
NPO法人J-coin事務局 中島サロンの運営者です。この事業は「J-coin基金」の支援を受けています。

定款の事業名:コミュニティワークに関する各種モデル事業の実施

中間的就労

- 実施期間:2020年4月～2021年3月
- 実施場所:札幌市及びその周辺地域
- 受益対象者の範囲:①生活困窮者
②札幌市及びその近郊の地域住民及び団体
- 従事者人数:3名
- 支出額:84(千円)

○事業概要

即時一般就労が困難な生活困窮者に対し、有償の職業体験を実施する。
また、個々のニーズ合わせた有償トレーニングを企業及び地域住民らと協働で行い、
就労意欲の喚起及び自信回復を図る。

- ・広報いわみざわ配布等の作業
- ・小学校の消毒作業
- ・就農サポートハウスの清掃

広報岩見沢
折り込み作業



就農サポート
ハウスの清掃

定款の事業名:コミュニティワークに関する各種モデル事業の実施 【COVID-19の影響による困窮者支援現場の後方支援プロジェクト】

- 実施期間:2020年4月～2020年11月
- 実施場所:石狩・空知・後志管内
- 受益対象者の範囲:新型コロナウイルスの影響を受ける
①生活困窮者 ②生活保護受給者 ③支援団体

○受益対象者:

●アンケート調査

- ・事業者アンケート回答団体:367団体
- ・個人アンケート回答者:469名

●後方支援内容

- ・事業所アンケートを元に314事業所にマスク(33,360枚) アルコール(784L) ハンドソープ(596個) ポリ手袋(18,800枚)等を配布
- ・フードバンク配布:個人宅配送 452世帯1,103名(内子供694名)／窓口連携セット:24事業所に656セット(1,275日分)
- ・地域食堂:弁当配食1,028食／食材提供1,167回／弁当容器等配布4,628食分(3,600食+1,028食)
- ・「市民活動プラザ星園」の貸室・ロビーWi-Fi化:102件2109名
- ・シェルター利用:1名
- ・感染症対策研修:19事業所39名

●緊急報告会参加者:WEB参加者約70名／会場11名／動画総再生数471回

- 従事者人数:5名+後方支援プロジェクトチーム
- 支出額:10,409(千円)

○事業概要

READYFORによる新型コロナウイルス感染症:拡大防止活動基金の助成を受け【生活困窮者支援現場への後方支援プロジェクト】として、生活困窮者支援・社会福祉協議会・障害相談室等の相談支援現場を中心に、フードバンクや民間で支援活動を行っている団体などへ後方支援を行った。

アンケート調査に伴い上記の事業を支援ニーズに合わせて実施、支援ニーズを報告・連携支援・政策提言のスキームを繰り返し行った。

①アンケート調査

②ニーズに合わせた後方支援

③アンケート結果・支援ニーズを報告・連携支援・政策提言

事業終了後報告書をもとに札幌市内のフードバンク連携が始まったなどの効果があった。



定款の事業名:コミュニティワークに関する情報収集・発信事業

全国組織とのネットワークづくり事業

○実施期間:2020年4月～2021年3月

○実施場所:日本

○受益対象者の範囲

- ①若者
- ②ホームレス
- ③生活困窮者
- ④住宅確保要配慮者
- ⑤全国組織加盟団体

○従事者人数:10名

○支出額:24(千円)

○事業概要

新型コロナウイルス感染拡大の影響で、オンラインでの会議・研修会の開催となった。

- ・生活困窮者自立支援全国ネットワークへの参加(北海道研修会で講演)
- ・全国ホームレス支援ネットワーク総会への参加など
- ・全国居住支援法人協議会の北海道幹事団体としての参加及び講師派遣
- ・居住支援全国ネットワーク会議への参加
- ・各種調査研究事業への検討会への参加及び実施協力

